

花きの県別生産出荷概況(5月見通し)

令和2年4月30日現在

出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地	作柄及び概況
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬		
				(ピーク)	(前年比)	(前年比)	(前年比)					
バラ	群馬	施設 (周年)	アヴァランチェ サムライ08 ほか	周年 (5~11月)	12.2 (100%)	1,085 (100%)	799 (100%)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村	生育は順調であり、4月中下旬より冬季休眠産地も数量がまとまり始める見込み。 主産地の前橋では、母の日以降に改植が始まるため、一部の品種では5月後半から出荷量の減少が見込まれるが、全体の出荷量は平年並みを見込む。
アル リス アト ロメ	長野	周年	ピンクティアラ マッサ ハニーソフィア 他	周年 (4月上旬)		14,000 (100%)	5800 (100%)	45	35	20	JA上伊那 JA信州諏訪 JA松本ハイランド JA佐久浅間	5月は改植のピーク。販売環境が厳しいことから、苗が届き次第、早いペースでの改植が進んでいる。出荷量は下旬に向けて減少していく。

品目		販売における現状と今後の見通し	
バラ	現状	新型コロナウイルスの影響で、輸入品の入荷量は激減。国内産地も大暴落によって出荷調整を行う産地が多数あり、入荷量は激減。入荷量が少ないことから相場が保てるかという心配。婚礼もほぼ100%に近いキャンセル。駅ビル、百貨店が営業しない限り、相場の回復は見込めない(大田)。静岡・栃木・愛知・茨城などより入荷。イベント需要なくなり販売苦戦(FAJ)。花類全体としても例年の3分の1の相場、産地には調整に入る状況である(第一花き)。気温が低いため、出荷量も少なめ。コロナの影響もあり、単価は弱い(世田谷)。コロナウイルス感染拡大防止のため婚礼等のイベント自粛、縮小により業務需要は鈍い。小売りもこれといった需要は無く入荷の増加とともに販売は一旦厳しくなりそう(東日本板橋花き)。輸入物が少ない分国産物に引き合いが集中しているが、言うほど高くはない(東京FP)。	
	見通し	大田花き	影響が大きく、緊急事態宣言が解除されても、暫くは婚礼は動かないと思われる。小売り店も駅ビル、百貨店等が自粛後に再開しない限り、かなり厳しい販売が見込まれる。入荷量は出荷調整などが入り、減少する。
		FAJ	母の日需要で前半販売数量増量の見込みだが、現状では見通し立たず。
		第一花き	母の日需要での販売を考えたいが、コロナの影響での外出自粛であり、ネットでの販売に期待はしたいが、例年より動きは鈍いであろう。
		世田谷花き	母の日の需要も現状見通し立たず、4月に続き、厳しい状況となる見込み。
		東日本板橋花き	上旬は連休と母の日需要があるが世情がよろしくないため予断は許さない状況。入荷量相場維持のため生産、出荷調整が入りそうなため例年に比べ少な目か。
		東京フラワーポート	国産は増加傾向。輸入商材は輸送の都合ではっきりしない。
アルストロメリア	現状	専門店、業務店は仕入量が激減、量販店への販売が中心となり、低相場となった。産地も、下位等級の出荷調整に入り、下旬に向けて減少(大田)。長野・山形などより入荷。販売環境厳しく相場低迷(FAJ)。長野県産出荷最盛期も、コロナの影響で例年より更に悪い。下位等級は出荷調整(世田谷)。愛知中心の入荷。昨年より若干少ない入荷。コロナの影響で昨年より引き合い弱い(東日本板橋花き)。先月から比べ入荷は落ち着いてきたが、価格の上げは見られない(東京FP)。	
	見通し	大田花き	販売面は不透明。出荷量は多くはない見通し。
		FAJ	月前半で出荷ピーク超える見込み。引き続き長野・山形主力の入荷。
		第一花き	品物的に良い状況であり、ボリューム感もあり入荷も安定するが、需要と供給が伴わない状況となりそうである。
		世田谷花き	中旬に改植が本格的に始まるまでは減らない。厳しい流れ。
		東日本板橋花き	愛知・青森中心の入荷。昨年並みの出荷量の予定だが、天候次第で入荷の増減あり。
		東京フラワーポート	品質は暖地高冷地共に安定しており、後は販売状況が気になる。